

歴史研修会

五劫院と東大寺
ミュージアムと座学

12月の研修会、午前の部は24人が参加。真冬並みの気温ながら快晴に恵まれ、防寒対策も万全に奈良市内の史跡散策となった。

最初訪れた五劫院は、鎌倉時代に東大寺を再興した重源上人の開山。宋から招来されたと伝わる秘仏「五劫思惟阿弥陀仏」を特別に拝観させていただく。五劫とは計り知れないほど永い時を表す言葉。落語「寿限無」の主人公の名前の一部となる「五劫の擦り切れ」がこれ。計り知れない永い思惟の修行の結果、頭髮が伸びうず高く螺髪が盛り上がっている特異な尊像である。また、当院の墓地の特別の区画には、江戸期の大仏殿再建した公慶上人とその弟子公盛の墓が寄り添うように並んで、東大寺の変転の歴史を偲ばせる。



東大寺ミュージアムでは、10月から一年をかけて「東大寺の歴史と美術」をテーマに展示中。創建から、平安時代の塔頭の成立と学問の多様化、鎌倉時代初期の戦乱と復興、室町時代末から江戸時代にかけての罹災と復興など一連の歴史と、時代ごとの彫刻・絵画・書跡・工芸等の寺宝の数々を11回の期間に分けたシリーズ。奈良市の老春手帳を提示すれば無料だから、歴史好きにはこれからも楽しめる嬉しい企画である。

午後の部は、23人が参加、中小企業会館の研修室にての座学となる。日頃興味を持ったテーマについて、独断や誤解を恐れず、勉強の成果を披露し、ロマンを語る。岩本次郎先生の適切なご指摘をいただきながら、楽しい時間が過ぎていく。

メインスピーカーの川井さんの話は「日本仏教あれこれ」。日本の仏教の歩み、仏教の教え「滄愛と慈悲」「無と空」、密教と空海などについて、約1時間にわたり熱心に語る。豪放磊落なお人柄の所為か、仏の深遠な教えも幾らか親しみやすく心に響いたようだ。

次いで、「壬申の乱余話」は、9月の研修会に関連する研究発表。森さんから、「大海人皇子を支えた美濃出身の舎人について」、「良質の鉄鉾石を産出した美濃金生山と製鉄鍛冶集団」の話。次いで「鵜野讃良皇女の育った、讃良の馬飼いの里」について、日本書紀の記述と四條畷市の部屋北遺跡から馬飼集団の歴史の検証を古川から。締め括りは岩本先生の「持統天皇の吉野行幸の謎」と時間のたつのも忘れる熱弁が続いた。



最後の「26年度の活動計画案」(下記)の討議は時間切れのため途中で打ち切り。ご意見を事務局まで寄せていただくこととして終了。

- 4月 宇陀周辺の史跡を巡る(紀記シリーズ)
- 5月 五条市の歴史散歩
- 6月 明日香追想Ⅱ一万葉の里を訪ねる。
- 7月 特別企画 高野山歴史散策
- 9月 御所市の歴史を訪ねるⅡ
- 10月 上の太子梅鉢古墳群の天皇陵を訪ねる。
- 11月 万葉集閑話 額田王の生涯
- 12月 奈良市内の史跡と座学
- 1月 環濠の街今井町を歩く
- 2月 纏向遺跡と桜井市埋蔵文化財センター
- 3月 山の辺の道Ⅱ 天理から夜都岐神社

(追記)

反省会では、新たに2人が参加して歴史談議に花を咲かせていました。

(古川祐司)